

新生バスケ部で学んだ人生の「ミッション」

颯太●龍之介が高校へ進むとき、まだ男子バスケ部がなかったミッションを選んだのはびっくりしたよ。

龍之介●監督の濱屋先生と一緒に「石川県のバスケットを変えたい」って思ったんだ。颯太こそ、県外の強豪校に行くとはばかり思ってた。

颯太●濱屋先生の評判を聞いたのと、中学で全国優勝した仲間が「一緒に行こう」と言ってくれて、それなら地元の高校でも全国上位が狙えると思ったから。部活動以外に勉強もしっかりやる高校だから、そこは覚悟して入ったけど。バスケ部員は自分たちで学校生活のルールも作ってたよね。

龍之介●うん。濱屋先生はいつも「バスケだけ上手くてもダメだ」と指導してるし、普段の生活から規律正しくするために、僕ら1期生が始めた。「挨拶をする」とか、「授業後の黒板は進んで消す」とか。初めは乗り気じゃない部員もいたけど、日常生活でルールを守っていたら、バスケでも一人ひとりが自分の役割を果たせるようになって、チーム力が上がっていったね。

颯太●なるほど。僕も3年生になった年は、大会で思うように勝てなくて悩んだ。それまでは自分がチームを引っ張ることばかり考えてたけど、試合中に下級生に声をか

けたり、励ますようにしたら、みんなのプレーにも自信が生まれて、全員で支え合えるチームになった。バスケだけ、自分だけの考え方から抜け出せたときに、もっと成長できることを学べた高校時代だったな。

龍之介●東海大学バスケ部も選手の自主性を尊重してくれて、自分が成長できる環境だよな。大学受験のときは、先生方から入試科目の面接やプレゼンテーションの対策を受けられて助かったよ。颯太は？

颯太●僕は一人で頑張るつもりだったけど、担任の先生が有無を言わず受験対策の授業をしてくれた（笑）。でも実際の試験で、その対策がばっちり役立ったから、先生には心から感謝してる。

龍之介●ありがたいよね。僕は高校時代を通じて、親やチームメイトも含めて、自分が誰かに支えられていることを実感したな。今、プロバスケ選手を目指しているのも、これまで支えてくれた人たちにこたえたい気持ちが大きいよ。

颯太●特にミッションは、自分の将来や目標のために頑張る生徒をサポートしてくれるから心強いよね。僕も高校で成長できたから、プロや日本代表を目標にできているし、これから入学する後輩たちにも、やりたいことに向かって挑戦してほしいね。

東海大学体育学部体育学科3年
兄・大倉 龍之介 さん
北陸学院高等学校2015年度卒業
バスケットボールの名門・野々市市立布水中学校から北陸学院高等学校へ入学。2013年創立の男子バスケ部の1期生となり、創部2年目から全国大会に出場した。東海大学体育学部に進学後も、全国屈指の強豪バスケ部で腕を磨いている。

東海大学体育学部競技スポーツ学科1年
弟・大倉 颯太 さん
北陸学院高等学校2017年度卒業

兄と同じ布水中バスケ部の出身。中学時代に全国優勝を果たしたあと、北陸学院高の中心選手として、全国の舞台でインターハイベスト8、ウインターカップ3位（いずれも2016年度）などに輝いた。東海大学でも兄とともにバスケ部で活躍している。